

安全保障関連法案に反対する福岡大学教員有志の声明

福岡大学は、福岡高等商業学校・九州経済専門学校時代、戦争の真っ只中にありました。多くの本校学生が戦地に、勤労に動員され、福岡大空襲では図書館を焼失しましたⁱ。1943年（昭和18年）には廃校の危機に晒されました。

福岡大学の記録をひも解くと、そこには一人一人の痛切な思いがいくつも綴られています。

戦地に赴いた学生の遺書があります。八回生だった学生はこう書き遺し特攻隊員として戦死しました。

「私はどれほど恋に憧れたことか。しかし、遂に私はその実体を知らないまま終わってしまった……私の青春とは一体何であったのか、私の青春は遂に何物も残さないで終わった。否、中断された。こんな遺書を残して、私は新しい世界に入って行こうとする。再び七隈の学園に戻って、書物をひもとくことはないだろう。」ⁱⁱ

また、召集され、戦地に赴く友を送る句、そして、学生を送る教員の句がありますⁱⁱⁱ。

「満月に 踊り狂うて 友征きぬ」(十回生)

「学兵を 送る苦吟の 夜浅し」(教授)

福岡大学は、戦争の恐ろしさを身を以て経験しました。いったん戦争になれば、大学といえども否応なく巻き込まれ、人類の幸せを願う自由な教育・研究活動が失われていくことは歴史の教訓です。

戦後、福岡大学は総合大学に成長し、真理と自由を追求し、自発的で創造性豊かな人間を育成し、社会の発展に寄与すること（本学教育研究の理念）を使命として教育研究を行い、幾多の卒業生を輩出してきました。福岡大学がこのような教育と研究を行ってこられたのは、本学構成員の不断の努力と有形無形の公的・私的支援によるとともに、日本が平和であったからにほかなりません。日本の平和を保障してきたものは、日本国憲法を尊重する政治、とりわけ、自衛隊の合憲性に賛否はありつつも、ともかくも憲法9条のもと自衛隊の活動を専守防衛に限定してきた営みにあります。

現在、国会で審議されている安全保障関連法案は、専守防衛の限定を取り払い、日本が攻撃されていない段階での武力行使を可能とするものです。厳格な要件とされているものも、時の政府によって広く運用することが可能な内容であり、国民の反対や疑問を置き去りにしたまま米軍などの戦争に参加する可能性が否定できません。国民が政府の判断を後に検証しようとしても、特定機密保護法により、検証を妨げられる可能性があります。

安全保障関連法案は、日本国憲法、とりわけ憲法9条をないがしろにし、国民を置き去りにしたまま戦争に突き進み、人類の幸せを願う自由な教育と研究を脅かす危険を多分に含んだ法案といわなければなりません。

安全保障関連法案の持つ危険性と大学にとっての意味は、すでに「安全保障関連法案に反対する学者の会」の声明によって指摘されています。声明発表以後、大学と学生に多大な危

険をもたらすとの共感が広がり、数多くの大学教員、研究者と市民が賛同署名をしています。

私達も、福岡大学の歴史に学び、また、福岡大学の使命を全うするために、日本国憲法を国民とともに尊重する政治を求め、安全保障関連法案の廃案を求めるものです。

声明呼びかけ人（五十音順）

勝山吉章（人文学部）*

畑中久彌（法学部）*

林 政彦（理学部）*

※近日中に本声明の HP を立ち上げます。福岡大学教員、職員、学生、院生、名誉教授、元教員、元職員、元学生、元院生の皆様におかれましては、声明のご賛同や呼びかけ人へのご参加を頂きますと幸いです。

【声明文・注】

i 志願者を含め、兵士となった学生について『福岡 75 年の歩み 写真・年表編』はこう記しています（171-172 頁）。

1943 年（昭和 18 年）	学徒出陣の第 1 陣が出る
同 年	……本校生は、海軍予備学生（航空）志願者 51 人中合格者 50 人（すでに入隊したもの 28 人）陸軍特別操縦見習士官、志願者 18 人中合格者 4 人
同 年	……臨時徴兵検査が行なわれ、本校から 80 人が出陣することになり、壮行式を挙げる。送別クラスマッチを開催
同 年	……仮卒業生 60 人および第 1 学年修了者 21 人の学徒出陣に対し証書授与式を挙げる
同 年	本校生多数が学徒兵として第 2 海兵隊に入団応募することになり、博多駅から出発。

このほか、集団勤労作業についても多数の記載があります。

ii 『松稜の日々 福岡大学有信会 50 周年記念』260 頁

iii 同上・237 頁